

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

倉内紀子

倉知雅子

佐藤睦子

城間将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

長谷川賢一

春原則子

深浦順一

藤原百合子

水田秀子

矢守麻奈

今夏は天候の変動が激しく、global warmingの影響をひしひしと感ずることが多かったように思います。

さて、今号は第18回日本言語聴覚学会の事後抄録と、アルツハイマー病の語想起に関する原著論文および通常学級に在籍する児童の言語指導に関する短報を掲載しています。

第18回日本言語聴覚学会は、2017年6月23日～24日の間、島根県松江市(会長竹内茂伸先生)で開催されました。大会テーマは、「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される言語聴覚士になる：地域包括ケアに求められる言語聴覚士の役割」であり、時宜を得た充実した内容の学会となりました。地域を基盤とした言語聴覚療法の提供は、1980年代から少数の地域で先験的な試みが始まりましたが、介護保険制度や医療介護総合確保推進法などの法的整備を経て、言語聴覚士の参加がいっそう求められるようになってきました。また、小児を対象とした言語聴覚療法においても、健診や児童デイへの参加など言語聴覚士が担う役割はますます大きくなるものと思います。

(社)日本言語聴覚士協会では、言語聴覚士養成教育ガイドライン・モデルコアカリキュラムを作成しており、本年度には完成する予定です。このカリキュラムでは「地域言語聴覚療法」の学修を重要なものとして位置づけており、就職後に現場で体験的に学ぶだけでなく、養成教育において体系的に理論と技術を学び、現場で発展的な技術を身につけることができるよう教育の整備を進めています。地域言語聴覚療法については、制度やシステムの論議は盛んになされていますが、効果的で効率的な言語聴覚療法の内容については、客観的で再現性がある論議や研究があまり進んでいないように思います。今後、このような研究が増えてくることを期待したいと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第14巻 第3号)2017年9月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2017, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)